

がん患者さんとそのご家族のための『やさしい緩和ケア』

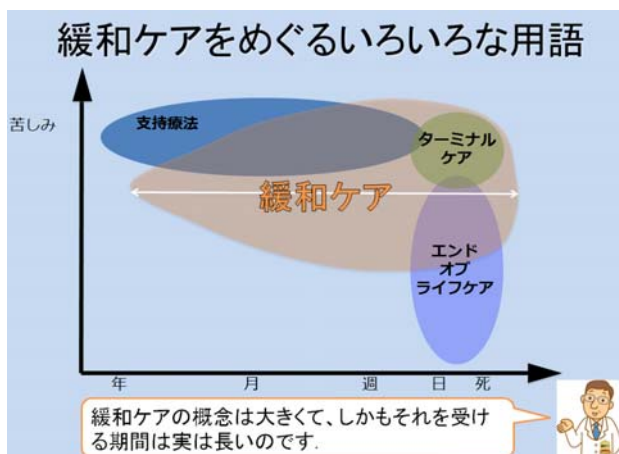
緩和医療科 医長 加登 大介

1. はじめに

『緩和ケア』ということばを聞いてどんなイメージを持つでしょうか。もしかしたら多くの方は緩和ケアというのは、死が差し迫った方だけが受け、そして副作用の強いクスリを使う“寂しい”または“怖い”医療だと思ってしまうかもしれません。でも実際のところは、緩和ケアは皆さんが日常受けている医療の基本・原点であり、実はとても“優しい”医療なのです。今回の公開講座では、具体的にどのような点で“優しい”のか、できるだけ“易しい”言葉でご説明したいと思います。

2. 緩和ケアはいつから受けられるか

緩和ケアというと、終末期医療（ターミナルケア）のことを連想される場合がありますが、必ずしもそうではありません。確かに以前はターミナルケアとほぼ同義でしたが、現在ではより早期からのケアが含まれます（図1）。国も、がん患者さんが質の高い生活を送るために、抗がん治療と並行して診断時から緩和ケアを受けられることを目指しています。がん診療連携拠点病院である当院では、研修医を含めがん診療に携わるほぼ全ての医師が緩和ケア研修会を修了しており、緩和ケアに関する基本的知識と技能を有しています。専門的な部分は緩和ケアチーム（がんサポートチーム）がお手伝いしています。



(図1)

3. 医療用麻薬は怖い薬なのか

がんに罹ると、早期の方でも30～50%に、進行期では70～80%の方に痛みが生じます。痛みは生活の質を下げる大きな要素になりますが、今では多くの方の痛みを薬で和らげることが出来るよ

緩和医療科 医長

加登 大介 平成13年卒

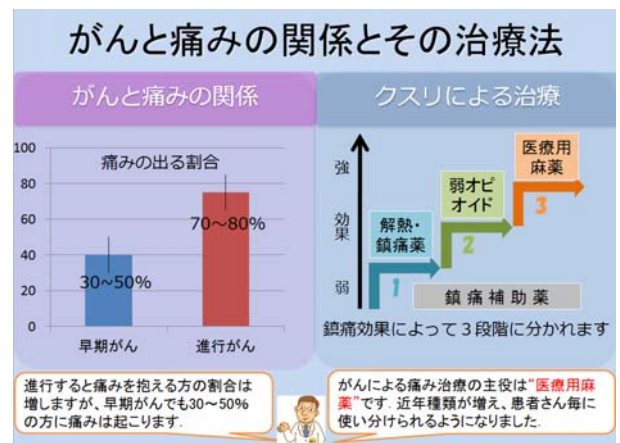


<専門分野>
緩和医療全般

<資格・所属学会等>

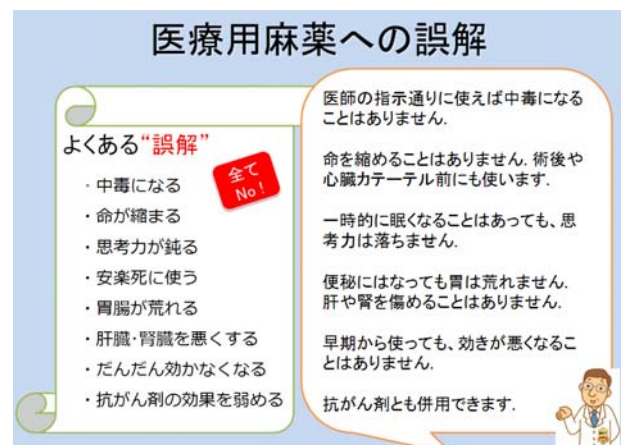
- 日本内科学会 認定内科医
- 日本血液学会 血液専門医
- 日本緩和医療学会 緩和医療専門医

うになりました（図2）。中でも医療用麻薬はその主役で、最近の種類も増えており、患者さん毎に使い分けられるようになりました。



(図2)

しかし日本は先進国の中でも医療用麻薬の使用量が極端に少なく、痛みの治療が十分に出来ない可能性が指摘されています。使用量が少ない理由のひとつとして、患者さんやご家族が医療用麻薬に多くの不安を持っていることが挙げられます（図3）。

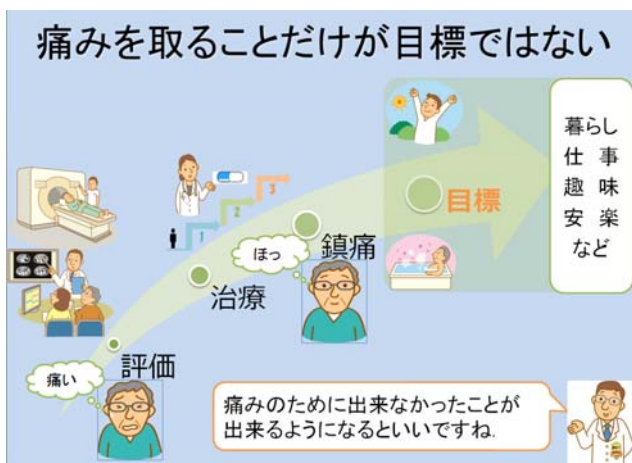


(図3)

しばしばお聞きする不安の内容として、『中毒になる』とか『効きが悪くなる』、『命が縮まる』などがあります。でもこれらは全て誤解です。実は医療用麻薬は適切に使えば身体に優しく安全な薬なのです。講座の中では、これらの不安が誤解であることを説明し、またどういった点から医療用麻薬が優しい薬と言えるのか、どんな点に注意が必要なのか、お話しします。

4. 緩和ケアの優しさ

緩和ケアの目標は、医療用麻薬を使って痛みを取るだけではありません。痛みなどの苦痛のためにしづらくなってしまったこれまでの暮らしを、痛みを取ることによって元の状態に近づけることが目標です（図4）。つまり、痛みなどの苦痛に焦点を当てるだけではなく、患者さんの生活や暮らしに目を向けるのが緩和ケアの特徴なのです。暮らしを支えるためには、医師や看護師の力だけでは足りません。リハビリ療法士や臨床心理士、ソーシャル・ワーカー、栄養士、薬剤師を含めたチーム医療を実践して初めて暮らしを支えることが可能になります。ですから緩和ケアではたくさんの職種が関わります。いろいろな角度から患者さんの生活をみて、その暮らしを支えるために各職種が知恵を出し合う“優しい”医療なのです（図5）。



(図4)



(図5)

5. さいごに

これからのことを考えるうえで、がんという病気の経過に関する特徴をお話しできればと思います。病状は患者さん毎に違いますし、先のことを見通すのは簡単ではありませんが、病気のおおまな経過をつかんでおくことは必要だと思います。

希望と備えの両方を持ちながら、皆さんがこれからのことを考えていく時の参考になれば幸いです。

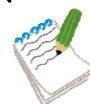
…詳しくは公開講座へ… 2017年5月の公開講座

日時：5月20日（土）14時～15時30分
場所：虎の門病院本院 本館3階講堂

虎の門病院では定期的に一般の方向けの公開講座を開催しています。

どなたでも（虎の門病院を受診していない方でも）ご参加いただけます。

講師は虎の門病院所属の医師が担当し、講演後には質問もお受けいたします。



申込み不要・入場無料、皆さまのご参加をお待ちしております。

虎の門病院 公開講座



公開講座はDVD化しています。



DVDは本館8階にある患者図書室で入院患者さんを対象に1泊2日でレンタルしています。外来患者さんは、図書室内でご覧になることができます。（イヤホンをご持参ください）。

講座当日にお越しになれない方、過去のあの回をもう1度見たいという方、ぜひDVDをご活用ください！



なお、当院のホームページ上に一部の講座動画を掲載しています。